

045

被災疑似体験プログラム及び決断のワークショップ

取組主体

一般社団法人おらが大槌夢広場

従業員数

4人

想定災害

地震・津波

実施地域

岩手県

- 東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県大槌町で、震災時の判断の難しさや、正解がない復興課題を自分事として体感するワークショップ等を主催し、災害に強い人材育成に取り組んでいる。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

被災時や復興時の正解がない課題を自分事として考える

- 一般社団法人おらが大槌夢広場は、東日本大震災において、町民の約1割にあたる1,285人が犠牲になった岩手県大槌町の若者らが災害からの復興を目指して立ち上げた。
- 同法人は、震災で起きた出来事を「自分事」として学ばない限り、命を守る行動にはつながらないのではないかとの思いから、甚大な被害を出した大槌町役場で地震発生から津波襲来までの約40分間に起きた出来事を疑似体験してもらう「震災疑似体験プログラム」や、復興時の正解のない課題を自分事として考える「決断のワークショップ」を主催し、災害に強い人材育成に取り組んでいる。
- 「震災疑似体験プログラム」では、大槌町役場前で地震発生から津波襲来までの約40分間に人々がどう動いたかを時系列で並べたケーススタディを行い、被災時の情報伝達や意思疎通の難しさを体感する。グループディスカッションを中心とした「決断のワークショップ」では、東日本大震災で甚大な被害を受けた旧大槌町役場庁舎を震災遺構として残すかどうか等の事例について、参加者それぞれが町長になったつもりで話し合い、グループ毎に「結論」を出す。それらの過程において、被災時や復興時の判断の難しさについて体感し、「自分だったらどうするか」と考えてもらうきっかけを作っている。
- 語り部ガイドや資料館等、発災時の状況を受動的に見聞かせるプログラムは多いが、能動的に「自分だったらどうするか」を考えてもらうワークショップは珍しく、他の取組では得られない体験を提供している。



外国人留学生等、海外からの参加者も多い



ジオラマを用いて大槌町の地形を説明

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- 同法人は、5年ほど前から、企業のリーダー養成や日本のみならず海外の大学の課題授業、中高生の修学旅行等に利用され、年間約3,000人を受け入れている。
- 有事の際に必要なコミュニケーションは常時から行う必要があるという気付きを得る参加者が多い。

3 現状の課題・今後の展開等

- ワークショップをファシリテーションできるスタッフが少ないため、人材の育成を進める必要がある。

担当者の声

- あなたとあなたの大切な人を守ることは、どのような行動をとることなのか。それを考えるきっかけにしてもらえたらと思います。

問合せ先

一般社団法人おらが大槌夢広場 TEL : 080-8209-2330 E-Mail : mioinusa@gmail.com